

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-267023

(P2004-267023A)

(43) 公開日 平成16年9月30日(2004.9.30)

(51) Int. Cl.⁷

A O 1 K 85/00

// A O 1 K 85/14

F I

A O 1 K 85/00

A O 1 K 85/00

A O 1 K 85/04

テーマコード(参考)

2 B 1 0 7

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2003-58531 (P2003-58531)

(22) 出願日 平成15年3月5日(2003.3.5)

(71) 出願人 000002495

ダイワ精工株式会社

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

(72) 発明者 田村 仁

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式

会社内

Fターム(参考) 2B107 BA45 BA70

(54) 【発明の名称】 ルアー

(57) 【要約】

【課題】金属で形成されたルアーに壊れにくい仕掛けの取付部を設けることである。

【解決手段】粉末冶金法を用いてタングステン合金にて成形するなど、金属で一体に形成したルアー本体の端部に、前記ルアー本体の成形時に、一体に仕掛け取付孔を形成する。

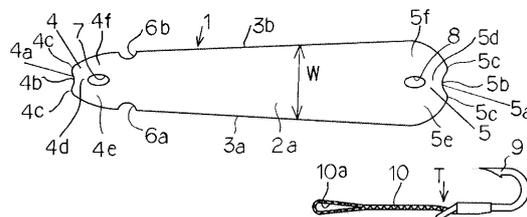
ルアー本体の前端部または後端部のいずれか一方に凹部を設け、この凹部内に障害物が当たらないようになっている。

この仕掛け取付孔は、ルアー本体の前後方向に長く形成し、その内周面を左右側面側になるにしたがって広がるような湾曲状に形成しする。

また、取り付け孔には、紐を介して釣り針を取り付ける。

【選択図】

図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

金属製のルアー本体の端部に、前記ルアー本体と一体に仕掛け取付孔を設けると共に、前記ルアー本体の端部の周縁に凹部を形成したことを特徴とするルアー。

【請求項 2】

仕掛け取付孔の内周面は、その開口側が広がるように湾曲状に形成したことを特徴とする請求項 1 記載のルアー。

【請求項 3】

仕掛け取付孔は、ルアー本体の前後方向に長く形成したことを特徴とする請求項 1 または 2 記載のルアー。

【請求項 4】

仕掛け取付孔に紐を介して釣り針を取り付けたことを特徴とする請求項 1 乃至 3 記載のルアー。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、釣りに使用する金属製ルアー本体を有するルアーに関する。

【0002】**【従来の技術】**

【特許文献 1】特開平 10 - 309150 号公報

【0003】

特許文献 1 には、タングステン合金で魚形状に成形して、その前部と後部に止め輪を介してラインやフックを止着可能としたルアーが示されている。

【0004】

このようなルアーは、流され難く水中の深い場所まで速やかに沈下したり、キャスト時に長い飛距離が得られ、また、重いため小型化が図れ、食い気が落ちた魚の食い込みを向上させることができる。

【0005】

しかし、特許文献 1 のルアーは、釣り糸や釣り針を止着するため、その前部と後部に止め輪が取り付けられているが、このような止め輪がルアー本体から突出していると釣り針や仕掛けが絡みやすい。

また、ルアーが重いため、ルアー本体から突出した止め輪が障害物にぶつくと破損しやすい。

【0006】**【発明が解決しようとする課題】**

解決しようとする課題は、このような止め輪がルアー本体から突出していると仕掛けが絡みやすく、障害物にぶつくと破損しやすい欠点があることである。

【0007】

本発明の目的は前記欠点に鑑み、金属製のルアーに仕掛けが絡みにくく、壊れにくい仕掛けの取付部を設けることである。

【0008】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するために、

請求項 1 に係わる本発明は、金属製のルアー本体の端部に、前記ルアー本体と一体に仕掛け取付孔を設けると共に、前記ルアー本体の端部の周縁に凹部を形成したことを要旨とするものである。

請求項 2 に係わる本発明は、仕掛け取付孔の内周面は、その開口側が広がるように湾曲状に形成したことを要旨とするものである。

請求項 3 に係わる本発明は、仕掛け取付孔は、ルアー本体の前後方向に長く形成したことを要旨とするものである。

10

20

30

40

50

請求項 4 に係わる本発明は、仕掛け取付孔に紐を介して釣り針を取り付けたことを要旨とするものである。

【0009】

請求項 1 から 5 に係る発明によれば、金属製のルアー本体の仕掛けの取付孔をルアー本体と一体に形成したので、仕掛けの取付孔が破損しにくく、また、仕掛けの取付部がルアー本体から外方へ突出しないため仕掛けが絡みにくい。

しかも、ルアー本体の端部の周縁に凹部を設けたため、凹部を設けた部分に障害物が当たらなくなり、端部の周縁に沿った枠部が破損しにくくなる。

【0010】

請求項 2 に係る発明によれば、仕掛け取付孔の内周面は、その開口側が広がるように湾曲状に形成しているため、仕掛け取付孔を介して取り付けた仕掛けが傷付きにくい。 10

【0011】

請求項 3 に係る発明によれば、仕掛け取付孔は、ルアー本体の前後方向に長く形成したため、枠部の長さが小さくなって破損しにくくなる。

【0012】

請求項 4 に係る発明によれば、仕掛け取付孔に紐を介して釣り針を取り付けているため、取付が容易で、枠部が破損しにくくなる。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、図面に基づいて本発明の実施形態を説明すると、 20

本発明においては、図 1 から図 6 が第 1 実施形態であり、図 1 がルアー本体と止着前の釣り針の側面図、図 2 がルアー本体の平面図、図 3 がルアー本体の平面断面図、図 4 が釣り糸や釣り針を止着したルアー本体の側面図、図 5 が図 1 の前端部と後端部の拡大図である。

【0014】

本発明の第 1 実施形態のルアーは、タングステン合金で形成したルアー本体 1 を有し、ルアー本体 1 は、前後方向に長く形成され、左側面 2 a と右側面 2 b を有する板状に形成されたジグルアー（メタルジグ）である。

左側面 2 a と右側面 2 b の間はそれぞれ峰を形成する側縁部 2 a、3 b となっており、それぞれ長手方向に形成された側縁部 2 a、3 b は、前端部 4 a の周縁と後端部 5 a の周縁に連なっている。 30

【0015】

このルアー本体 1 は、タングステン合金を用いて粉末冶金法により成形され、この成形時にルアー本体 1 の前端部 4 a と後端部 5 a にそれぞれ、左側面 2 a から右側面 2 b に貫通する孔（仕掛け取付孔）7、8 を一体に形成している。

したがって、ルアー本体 1 は、上記タングステン合金で一体に形成され、大きな強度を有し、また、その内部にワイヤ等は挿通されていない。

【0016】

ルアー本体 1 の前端部 4 a の孔 7 は、左側面 2 a 側または右側面 2 b 側から見てルアー本体 1 の前後方向に長く、また、その近くの端部側（前端部 4 側）は湾曲状に形成され、楕円形状をしている。 40

この孔 7 は、図 3 に示すとおり、その内周面が両側面の左側面 2 a 側と右側面 2 b 側になるに従ってその開口が広がるようになっており、左側面 2 a から右側面 2 b に至る中間部が孔内方に突出する形状の湾曲面となっている。

【0017】

この湾曲面は、少なくともこの孔に近い端部側（前端部 4 a 側）の内周面に形成されるだけでも良い。

この湾曲は前記中間部の湾曲が緩やかで（曲率が小さい）開口側が湾曲がきつくなっているが、全体が曲面でなくてもよく、左側面 2 a の開口と前記中間部と右側面 2 b の開口の位置関係で前記中間部がより孔内方に位置していればよい。 50

【0018】

また、前端部4aの周縁には、図5のように前端部4aに設けた孔7に向かって窪んだ凹部4bが形成され、この凹部4bの両側（側縁部2a、3b側）それぞれは前方に突出する凸部4cが形成されている。

凹部4bは、前端部4aの周縁の略中央に位置し、側縁部2aから側縁部3b方向に湾曲状に窪んで形成されており、前端部4aが障害物に衝突したときはその両側の凸部4c、4cが当接し、凹部4bには当接しにくい。

これにより通常最も障害物に当接しやすく、孔に近い、尖った端部周縁の中央部の障害物への衝突をなくしている。

【0019】

しかも、凸部4c、4cの最も前方へ突出した部分は、孔7よりもそれぞれ側縁部2aから側縁部3b側に至るルアー本体1の幅w方向（ルアー本体1の長手方向と直行する方向）の位置において、それぞれ側縁部2aと側縁部3b側にずれて形成されているため、凸部4cが障害物に衝突しても孔7にかけて割れが生じにくい。

また、凸部4c、4cが障害物に衝突すると、当接部分が複数であるため、その衝突の力が分散するため尖った前端部の一点で衝突するルアーに比べて先端部周縁から孔7にかけての割れがより防止されることとなる。

【0020】

さらに、孔7から前端部4aの周縁側、側縁部2a側、側縁部3b側の、孔7周辺に形成された枠部4は、凹部4b（または前端部4aの周縁）から孔7までの前端部側枠部4dのルアー本体1長手方向の幅w1よりもそれぞれ側縁部2a、側縁部3bから孔7までの側縁部側枠部4e、4fの幅w2の方が幅が広く、強度が大きいので、凸部4c、4cが障害物に衝突してもこの側縁部2a、側縁部3bから孔7までの間（側縁部側枠部4e、4f）も割れが生じにくくなっている。

【0021】

孔7が左側面2a側または右側面2b側から見てルアー本体1の前後方向（長手方向）に長く、これと直行する方向に短く形成されているため、前端部側枠部4dの長さL1（ルアー本体1の幅w方向の長さ）が小さくなるため、荷重に対して前端部側枠部4dが破損しにくくなる。

また、孔7をルアー1の長手方向に長くしてこれと直行する方向に短くすることで枠部4の側縁部側枠部4e、4fの幅w2より孔7の幅H1の方が小さく形成しており、孔7を有しながら枠部4の側縁部側枠部4e、4fは破損しにくい。

【0022】

枠部4の側縁部側枠部4e、4fの幅w2より前端部側枠部4dの幅w1の方が小さく形成しているため、孔7を介して前端側枠部4dに仕掛けを止着した場合、仕掛けがルアー本体1の前端部4a方向へ方向付けして取り付けやすく、仕掛けの止着部が小さくてすむため仕掛けの絡み等が防止できる。

【0023】

前記の孔7に釣り糸Lを挿通してルアー本体に結び付けると前端部側枠部4dを取り巻いて結ばれるが、孔7の内周面に形成された湾曲面によって釣り糸Lの傷付が無くなり糸切れが防止される。

また、前端部4aの孔7に向かって凹んだ凹部4bとこの両側の凸部4c、4cによって前端部側枠部4dを取り巻いて結ばれた釣り糸Lの位置がずれにくくなる。

【0024】

側縁部2a、側縁部3bには、孔7よりも後端部5a側に凹部6a、6bが形成され、紐付き釣り針Tが孔7を介して装着され、この時の紐10の一部が係止されて移動しないようになり紐付き釣り針Tが位置決めされる。

【0025】

紐付き釣り針Tは紐10の一端に釣り針9が設けられ、紐10の他端は折り返されて再び紐10に止着することで輪10aが形成され、紐10の輪10aを孔7に挿通した後、こ

10

20

30

40

50

の輪 10 a に釣り針 9 をくぐらせて釣り針 9 側を引くことで紐 10 を締め付けて取り付け
る。

紐 10 は、ケブラーの他、ナイロン、ポリエチレン等の合成樹脂、ステンレス等金属など
の複数の繊維で形成され、ルアー本体に取り付け可能な柔軟性を有しているものが好まし
く、撚りがかけられていたり、編み込みされているものがよい。

【0026】

紐 10 の輪 10 a の先端側は、凹部 6 b に入り込み孔 7 に挿通して締め付けた紐 10 の緩
みを防止し、紐付き釣り針 T が動きにくくなり位置決めされてルアー本体 1 に取り付けら
れる。

この時、紐 10 の輪 10 a の先端側は、凹部 6 a に入り込むように取り付けてもよい。

10

【0027】

孔 7 は、その内周面が両側面の左側面 2 a と右側面 2 b になるに従ってその開口が広がる
ようになっており、左側面 2 a 側と右側面 2 b 側の間が孔内方に突出する形状の湾曲面
となっているため、孔 7 に挿通された紐付き釣り針 T の紐 10 は孔 7 の内周面との接触で
傷が付きにくい。

【0028】

さらに、ルアー本体 1 の後端部 5 a にも孔 8 が設けられ、この孔 8 には主に紐付き釣り針
T が取り付けられる。

ルアー本体 1 の後端部 5 a の孔 8 は、左側面 2 a 側または右側面 2 b 側から見てルアー本
体 1 の前後方向に長く、また、その近くの端部側（後端部 5 a 側）は湾曲状に形成され、
楕円形状をしている。

20

この孔 8 は、図 3 に示すとおり、孔 7 と同様、その内周面が両側面の左側面 2 a 側と右側
面 2 b 側になるに従ってその開口が広がるようになっており、左側面 2 a から右側面 2 b
に至る中間が孔内方に突出する形状の湾曲面となっている。

この湾曲面は、少なくともこの孔に近い端部側（後端部 5 a 側）の内周面に形成されるだ
けでもよい。

【0029】

また、後端部 5 a の周縁には、後端部 5 a に設けた孔 8 に向かって窪んだ凹部 5 b が形成
され、この凹部 5 b の両側（側縁部 2 a、3 b 側）のそれぞれには後方に突出する凸部 5
c、5 c が形成されている。

30

凹部 5 b は、後端部 5 a 周縁の略中央に位置し、側縁部 2 a から側縁部 3 b 方向に湾曲状
に窪んで形成されており、後端部 5 a が障害物に衝突したときはその両側の凸部 5 c、5
c が当接し、凹部 5 b には当接しにくい。

これにより通常最も障害物に当接しやすく、孔に近い、尖った端部周縁の中央部の障害物
への衝突をなくしている。

また、凸部 5 c、5 c が障害物に衝突すると、当接部分が複数であるため、その衝突の力
が分散するため尖った前端部の一点で衝突するルアーに比べて先端部周縁から孔 7 につ
けての割れがより防止されることとなる。

しかも、両凸部 5 c、5 c の最も後方へ突出した部分は、側縁部 2 a から側縁部 3 b に至
るルアー本体 1 の幅 w 方向（ルアー本体 1 の長手方向と直行する方向）の位置において孔
8 よりもそれぞれ側縁部 2 a、側縁部 3 b 側にずれて形成されているため、凸部 5 c が障
害物に衝突しても後端部 5 a 周縁から孔 8 にかけて割れが生じにくい。

40

【0030】

さらに、凹部 5 b から孔 8 までの幅 w 3 よりも側縁部 2 a、側縁部 3 b から孔 8 までの幅
w 4 の方が幅が広く、強度が大きいので、凸部 5 c が障害物に衝突してもこの側縁部 2 a
、側縁部 3 b から孔 8 までの間についても割れが生じにくくなっている。

【0031】

前記の孔 8 に紐付き釣り針 T の紐 10 を挿通してルアー本体 1 に取り付けると、孔 8 から
後端部 5 a の周縁側、側縁部 2 a 側、側縁部 3 b 側の孔 8 周辺に形成された枠部 5 のうち
、孔 8 と凹部 5 b の間の後端部側枠部 5 d を取り巻いて取り付けられるが、孔 7 の内周面

50

に形成された湾曲面によって紐 10 の傷付が無くなり切断が防止される。

また、後端部 5 a の孔 8 に向かって凹んだ凹部 5 b とこの両側の凸部 5 c、5 c によって後端部側枠部 5 d を取り巻いて取り付けられた紐付き釣り針 T の紐 10 の位置がずれにくくなり側縁部 6 a、6 b 側に回り込まないため、釣り針がルアー本体 1 の後端部 5 a 側に位置し魚の針掛かりがよくなる。

【0032】

紐付き釣り針 T は、前記孔 7 を介し凹部 6 b に取り付けられたものと同じで、紐 10 の一端に釣り針 9 が設けられ、紐 10 の他端は折り返されて再び紐 10 に止着することで輪 10 a が形成されている。

紐 10 の輪 10 a を孔 8 に挿通した後、この輪 10 a に釣り針 9 をくぐらせて釣り針 9 側を引くことで紐 10 を締め付けて後端部側枠部 5 d を取り巻いて取り付ける。 10

【0033】

後端部 5 a は、ルアー本体 1 のキャスティングや着底時に障害物に当てやすいものの、紐 10 の輪 10 a の先端側は、凹部 5 b に入り込み孔 8 に挿通して締め付けた紐 10 の緩みを防止し、凹部 5 b に入り込んでいるため、障害物に接触しにくく、傷付き、切断が防止される。

【0034】

図 5 のように孔 8 が左側面 2 a 側または右側面 2 b 側から見てルアー本体 1 の前後方向に長く形成されているため、後端部側枠部 5 d の長さ L 2 (ルアー本体 1 の幅 w 方向の長さ) が小さくなるため、荷重に対して後端部側枠部 5 d が破損しにくくなる。 20

また、孔 8 をルアー 1 の長手方向に長くしてこれと直行する方向に短くすることで枠部 5 の側縁部側枠部 5 e、5 f の幅 w 4 より孔 8 の幅 H 2 の方が小さく形成しており、孔 8 を有しながら枠部 5 の側縁部側枠部 5 e、5 f は破損しにくい。

【0035】

枠部 5 の側縁部側枠部 5 e、5 f の幅 w 4 より後端部側枠部 5 d の幅 w 3 の方が小さく形成しているため、孔 8 を介して後端部側枠部 5 d に仕掛けを止着した場合、仕掛けがルアー本体 1 の後端部 5 a 方向へ方向付けして取り付けやすく、仕掛けの止着部が小さくてすむため仕掛けの絡み等が防止できる。

【0036】

また、図 6 は第 1 実施形態の仕掛けの取付例であるが、孔 7、8 にあらかじめ仕掛けの一部である金属製のリング 11 を挿通させて取り付けおくと他の仕掛けの接続に便利である。 30

この金属リング 11 は金属線材を孔 7 に挿通し、その端部同志を溶接することで取り付ける。

この金属リング 11 に他のリング 12 (スプリットリングなど) を介して釣り糸 L を結合したりすることができ、この他のリング 12 (スプリットリングなど) にさらに他のリング 13 を介して紐付き釣り針 T を止着できる。

同様に孔 8 にも金属製のリング 11 を挿通させて、この金属製のリング 11 を介して紐付き釣り針 T を止着できる。

【0037】

このルアー本体 1 が形成される時は、粉末状にした金属を加圧、加熱して焼結体を得る粉末冶金法を用いて以下のごとく製造される。 40

まず、タングステンとニッケル、鉄の金属粉末、そして、成型プレスで成形しやすくするための潤滑剤を混合機で混合する。

【0038】

なお、この実施形態のタングステン含有量は、70重量%であるが、タングステン含有量を少なくとも70重量%以上とするのは、必要な比重(比重14.0)を得るためであり、従来のルアーに用いられていた鉛(比重11.36)と十分に重量差を設けるためである。

又、含有量を100重量%未満としたのは、タングステンの融点が3380 と高く、高 50

温でなければ焼結しないため、ニッケルを添加することによって焼結温度を1500程度に下げることができる。そして、上記潤滑剤は、焼結時に燃えてなくなるものである。

又、比重調整用元素としてモリブデン、コバルト、銅、その他を添加することも可能である。

【0039】

次に、冷間等方圧成型法により混合粉を成形プレスにセットされた金型に送り込み、混合粉を金型の上パンチと下パンチで1.0ton/cm²から3.0ton/cm²の圧力で加圧して、ルアー本体の成形体(圧粉体)を成形する。

この成型時に、記述した孔7, 8及び凹部4b, 5b, 6a, 6bを有するルアー本体1の成形体が成形される。 10

【0040】

そして、最後にこの成形体を焼結炉内で高温加熱して焼き固める(焼結する)ことで、本実施形態に係るルアー本体1が製造される。

尚、ルアー本体1の焼結は、水素雰囲気中で固相にて行う。

さらにこの焼結の後で、寸法精度を高め密度を上げるためプレスを行ってもよい。

【0041】

なお、この実施形態ではルアー本体1を比重14.0のタングステン合金(70W-28Ni-2Fe)で形成したが、比重16.0のタングステン合金(86W-2Ni-2Cu-1Co-2Fe)や比重19.0のタングステン合金(99W-1Ni)など比重14.0以上のタングステン合金を用いてもよい。 20

そして、外側に塗装を施すが、ルアー本体1は、部品を組み合わせることなく形成され、又、内部にワイヤ等を通さず一体に形成し、仕掛けの取付孔も一体に有するため、安価に製造でき、強度が大きい。

【0042】

このルアー本体1を用いて釣りをを行うときは、孔7, 8の一方又は両方に金属リングを介して釣り針を取り付けたり、紐付き釣り針Tが装着され、孔7を介して釣り糸Lが直接又は金属リングその他の連結具を用いて取り付けられる。

そして、キャスト又は水中に投下されるが、ルアー本体1が金属で形成されているため、ルアーの小型化が図れ、且つ重量増が図れることとなる。 30

このため空気抵抗が減って飛距離が伸び、又、体積の小型化にともない流され難く、水の抵抗が減って、沈下速度が早まる。

【0043】

さらに、仕掛けの取付孔(孔7, 8)をルアー本体1と一体に設けたので、仕掛けの取付部が破損しにくく、また、仕掛けの取付孔がルアー本体から外方へ突出しないため仕掛けが絡みにくい。

【0044】

ルアー本体1の前端部4aや後端部5aに凹部を設けたため、枠部4, 5の仕掛け取付孔に近い部分に障害物が当たらなくなり、枠部4, 5が破損しにくくなる。

特に、撓性の小さいタングステン合金にてルアー本体1を一体に形成した場合、枠部4, 5が破損しにくくなるのは有効である。 40

【0045】

また、仕掛け取付孔の内周面は、その開口側が広がるように湾曲状に形成しているため、仕掛け取付孔を介して取り付けした仕掛けが傷付きにくい。

【0046】

しかも、仕掛け取付孔(孔7, 8)は、ルアー本体の前後(長手)方向に長く形成し、この方向と直行する方向に短く形成したため、孔7, 8の周辺の枠部の長さが小さくなるため、金属で形成しても破損しにくい。

【0047】

また、仕掛け取付孔に紐を介して釣り針を取り付けているため、取付が容易で、破損しに 50

くい。

【0048】

図7は本願の第2実施形態であり、釣り糸や釣り針を止着したルアー本体の側面図である。

このルアー本体1は、第1実施形態の凹部6a、6bの代わりに、側縁部3bの孔7よりも後端部5a側に後端部5a側が低くなる段部6cを設けている。

孔7を介して取り付けられた紐付き釣り針Tは紐10の輪10aの先端側が、段部6c係止され孔7に挿通して締め付けた紐10の緩みを防止し、紐付き釣り針Tが動かず、位置決めされてルアー本体1に取り付けられ、このルアーでも実施形態1と同様の作用効果を奏する。

他の構成は前記第1実施形態と略同一である。

【0049】

なお、本発明は、主にジグルアーで説明したが、スプーン型ルアーやバイブレーションルアーなどのルアー本体を金属で形成したルアーに使用することができる。

さらに、本発明は、ルアー本体1の前端部と後端部の両方に孔と凹部を設けたが何れか一方でよい。

又、金属は、タングステン合金が比重が大きく、又、硬度を大きくできるため金属製のルアーには好都合であるが、これに限らず鉛、ステンレス、銅合金などタングステン合金以外の金属を用いることが出来る。

【0050】

【発明の効果】

以上述べたように請求項1から4に係る発明によれば、仕掛けの取付孔をルアー本体と一体に設けたので、仕掛け取付孔周辺の枠部が破損しにくく、また、仕掛けの取付孔がルアー本体から外方へ突出しないため仕掛けが絡みにくい。

ルアー本体の端部の周縁に凹部を形成したので、枠部の仕掛け取付孔に近い部分に障害物が当たらなくなり、枠部が破損しにくくなる。

【0051】

請求項2に係る発明によれば、仕掛け取付孔の内周面は、その開口側が広がるように湾曲状に形成しているため、仕掛け取付孔を介して取り付けられた仕掛けが傷付きにくい。

【0052】

請求項3に係る発明によれば、仕掛け取付孔は、ルアー本体の前後方向に長く形成したため、枠部の長さが小さくなって破損しにくくなる。

【0053】

請求項4に係る発明によれば、仕掛け取付孔に紐を介して釣り針を取り付けているため、取付が容易で、枠部が破損しにくくなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施形態で、ルアー本体の側面図と止着前の釣り針の側面図である。

【図2】同ルアー本体の平面図である。

【図3】同ルアー本体の平面断面図である。

【図4】釣り糸や釣り針を止着したルアー本体の側面図である。

【図5】図1の前端部と後端部の拡大図である。

【図6】第1実施形態の仕掛けの取付例で、孔にリングを取り付けたルアー本体の側面図である。

【図7】第2実施形態で、釣り糸や釣り針を止着したルアー本体の側面図である。

【符号の説明】

1 ルアー本体

4、5 枠部

4a 前端部

5a 後端部

4a、5a、6a、6b 凹部

10

20

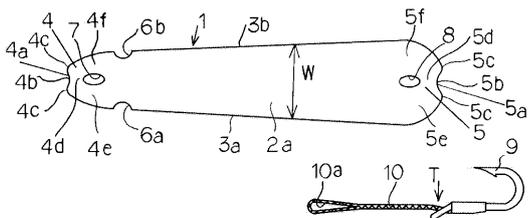
30

40

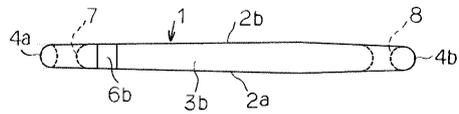
50

4c、5c 凸部
7、8 孔

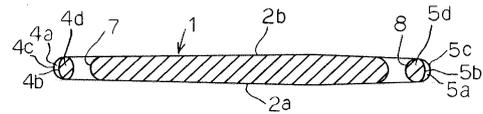
【 図 1 】



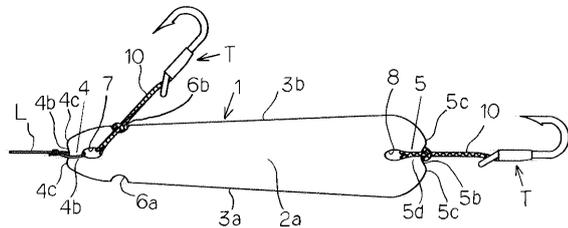
【 図 2 】



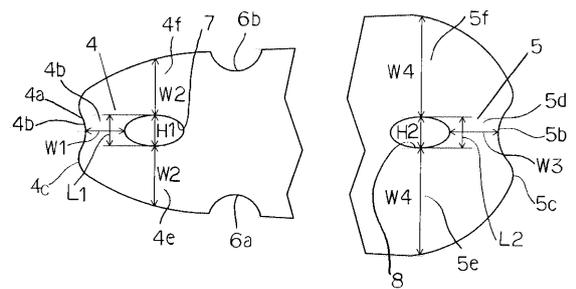
【 図 3 】



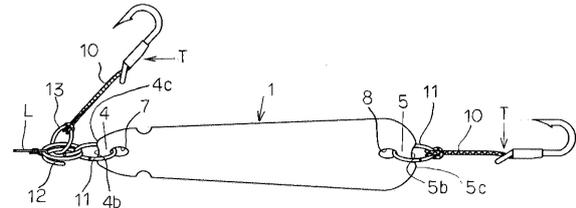
【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】

